

茶葉を用いた ハンドケアの効果



医療法人社団三意会
介護療養型老人保健施設あづまの里
介護福祉士 小椋紳光
看護主任 村松敦子
施設長 池田千鶴

施設概要

- ・平成24年4月
病院（一般病床20床／介護療養病床30床）から転換
- ・平均要介護度 4.08
- ・平均年齢 88.1±8.2歳（男性15名、女性31名）
- ・経口摂取者28名/経管栄養者18名 （平成30年9月末）
- ・医療ニーズの高い重度の利用者が多い
- ・療養強化型を算定

はじめに

- ・ 高齢の長期臥床者の拘縮のある手掌、手指間は湿潤環境となりやすく不快臭を伴い、びらんの要因となる。
- ・ 当施設でも平成27年度までは一般的なハンドケアとして石鹼による手、手指の洗浄後ハンドタオル等を握って頂くケアを行っていたが増悪を繰り返し皮膚トラブルが長期化する状況に苦慮していた。
- ・ 茶葉に含まれるカテキンの抗菌消臭効果を期待した研究や報告がされている事に着目し平成28年度9月から茶葉を用いた(使用済みのティーバッグを乾燥させたものを握っていただく)ハンドケアを実施し良好な結果が得られたので報告する。

対象

手指に拘縮のある入所者

調査期間

平成27年と平成28年7月8月の茶葉によるケア実施前と平成28年9月,平成29,30年の7月から9月の間の茶葉によるケア実施後の各年7月から9月までの3か月間

調査方法

茶葉を使用前後の手指の皮膚トラブルによる軟膏塗布等の医療的処置と手浴などのケア頻度の調査

手指スキンケアのため茶葉を使用した経緯 1

使用導入前

寝たきりの利用者様や拘縮の強い高齢者の手指の皮膚は湿潤しやすく時に不快臭を伴う。洗浄、抗真菌薬軟膏処置を必要とすることがあった。

使用導入前の取り組み

布団内の湿潤環境から解放するためハンドタオルを握って頂いたり布団から手を出すなど実施してきたがいくらかの改善は見られたが解消はされなかった。

使用導入のきっかけ

平成28年9月の当施設で亡くなられた方の家族様より緑茶葉を使用したグッズを寄付していただき試用したのがはじまり。

手指スキンケアのため茶葉を使用した経緯 2

茶葉についての効果の調査

茶葉に含まれるカテキン効果について調査する。茶葉の抗菌効果に関して様々な研究結果が出ていることが分かり、緑茶、ほうじ茶共に抗菌効果があるとの事で平成28年9月より本格的実施を開始する。

茶葉使用後現在

その後の取り組みとして、ほうじ茶はカテキン含有量が少ないが乾燥材の代替になるのでは、ということで軽症例にはほうじ茶、重症例には緑茶を使用している。

参考論文:新潟県立看護大学看護研究交流センター 平成23年度地域課題研究報告

拘縮手の不快臭に対する緑茶葉を用いたハンドケアの効果 (緑茶に関して)

参考文献: (ホームページ) 日本茶の専門ページ 緑茶のカテキンについて 効果効能について

手指スキンケア用茶葉の作り方

栄養課の全面協力のもと乾燥茶葉を作っている。(多職種連携)

ほうじ茶

朝の食事時提供の煮だし
済みほうじ茶パックを回収

緑茶

各スタッフが家庭で淹れ
た緑茶の茶葉を回収

緑茶の茶葉に関しては
ティーバックの中に詰め
替えを行う

水分を絞り食器乾燥機
へ投入

食器とは入れる段を分けて乾燥を行う。

翌日の朝まで継続して
投入

朝昼夕の食器乾燥と共に同時に乾燥し続ける。

乾燥完了

茶葉の使用の方法

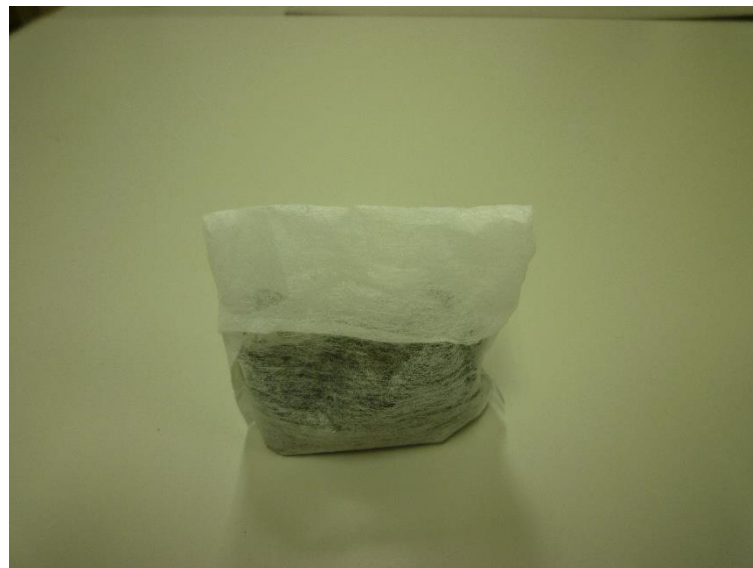
- ①ほうじ茶のティーバックは直接握っていただく。
- ②緑茶の茶葉はティーバックに移して使用のため中身が飛散することもあるため豆絞りなどさらさら触感の布でくるんで使用する。
- ③拘縮の状態、手の大きさ、手掌の状態により個数を変え使用している。

茶葉の交換について

- ①茶葉の交換頻度は緑茶は2週間に1回　ほうじ茶は週2回の入浴日毎での交換し手掌の状態によって交換回数は調整することもある。

施設で使用している茶葉

ほうじ茶



緑茶

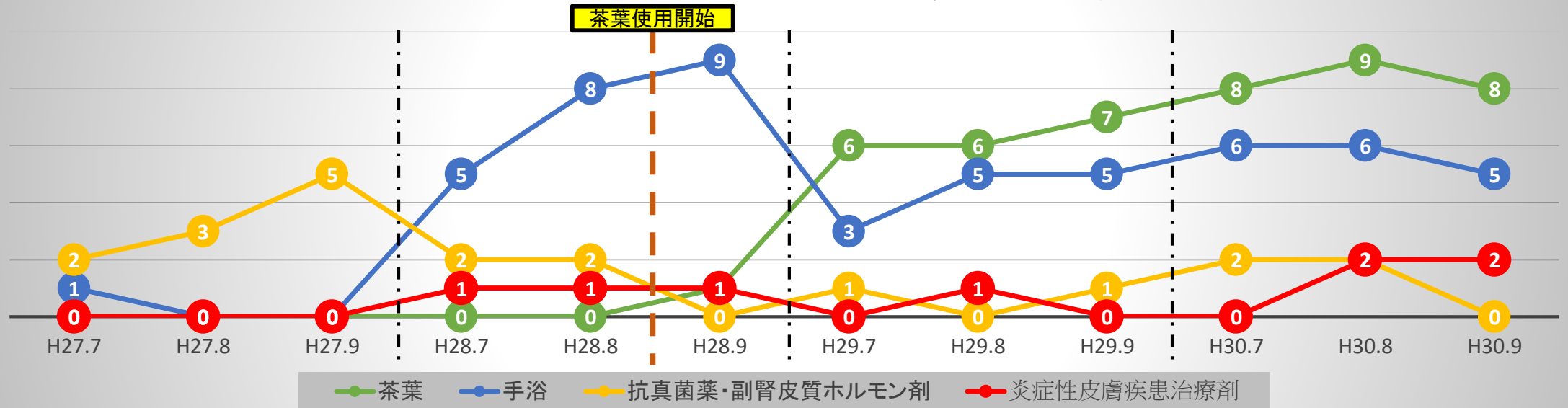


茶葉を握ったイメージ

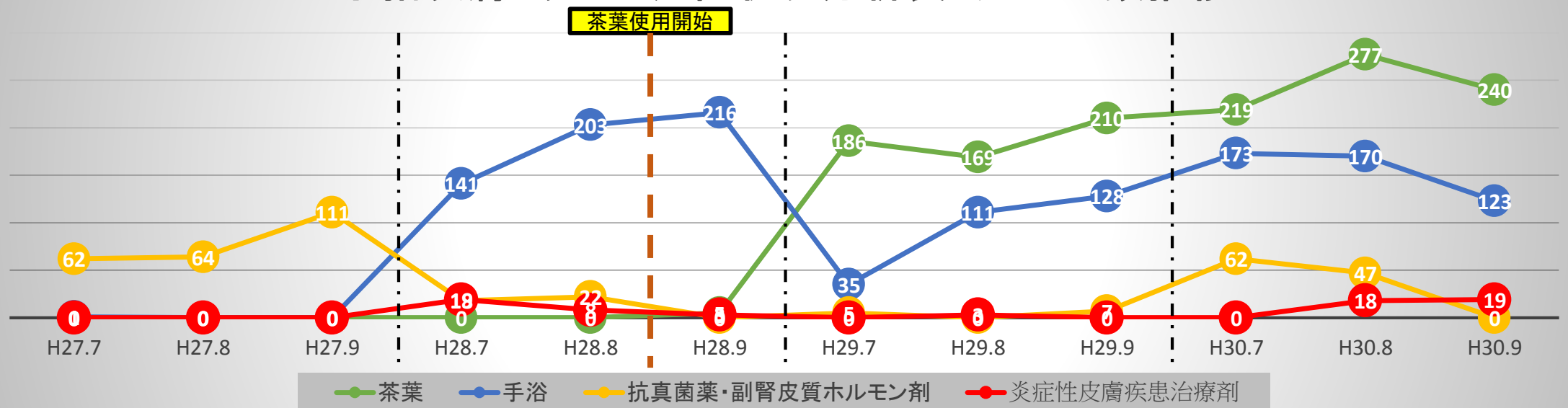
緑茶を豆絞り生地で
巻いたもの



手指皮膚トラブル処置状況分析表 実人数推移



手指皮膚トラブル処置状況分析表 延べ人数推移



結果

- ・ 予防的に茶葉を使用することで皮膚状態が良好に保て手浴や抗真菌薬剤の使用が減った。
- ・ スキントラブルが起きた時点で手浴、茶葉の使用を行い早期の対応を行うことにより抗真菌薬の使用にまで至る事案が少なくなったと思われる。
- ・ 平成30年7月と8月は抗真菌薬の使用が一時的に増えたがこれに関しては記録的猛暑の影響と前年までいなかった新規利用者様の湿潤があり対応しきれておらず、長期にわたり抗真菌薬の使用を行い改善に努めてきたため増えた。

考察

- ・ 今回の研究では培養臭気計による測定がないため茶葉が持つ抗菌消臭効果がどのような効果をもたらしたか数値的な評価はできないが茶葉の交換による湿潤環境の軽減や握りしめ拘縮の軽減があり週2回の入浴だけで皮膚トラブルを呈する利用者様が少なくなった。
- ・ 煮だし済みの茶葉を乾燥させ2次利用することにより安価かつエコなケアを実施できた。軟膏薬の処置の減少やスキンケアに関する感度が上がり他のケアの充実にも役立つことが出来た。